

1201100596346

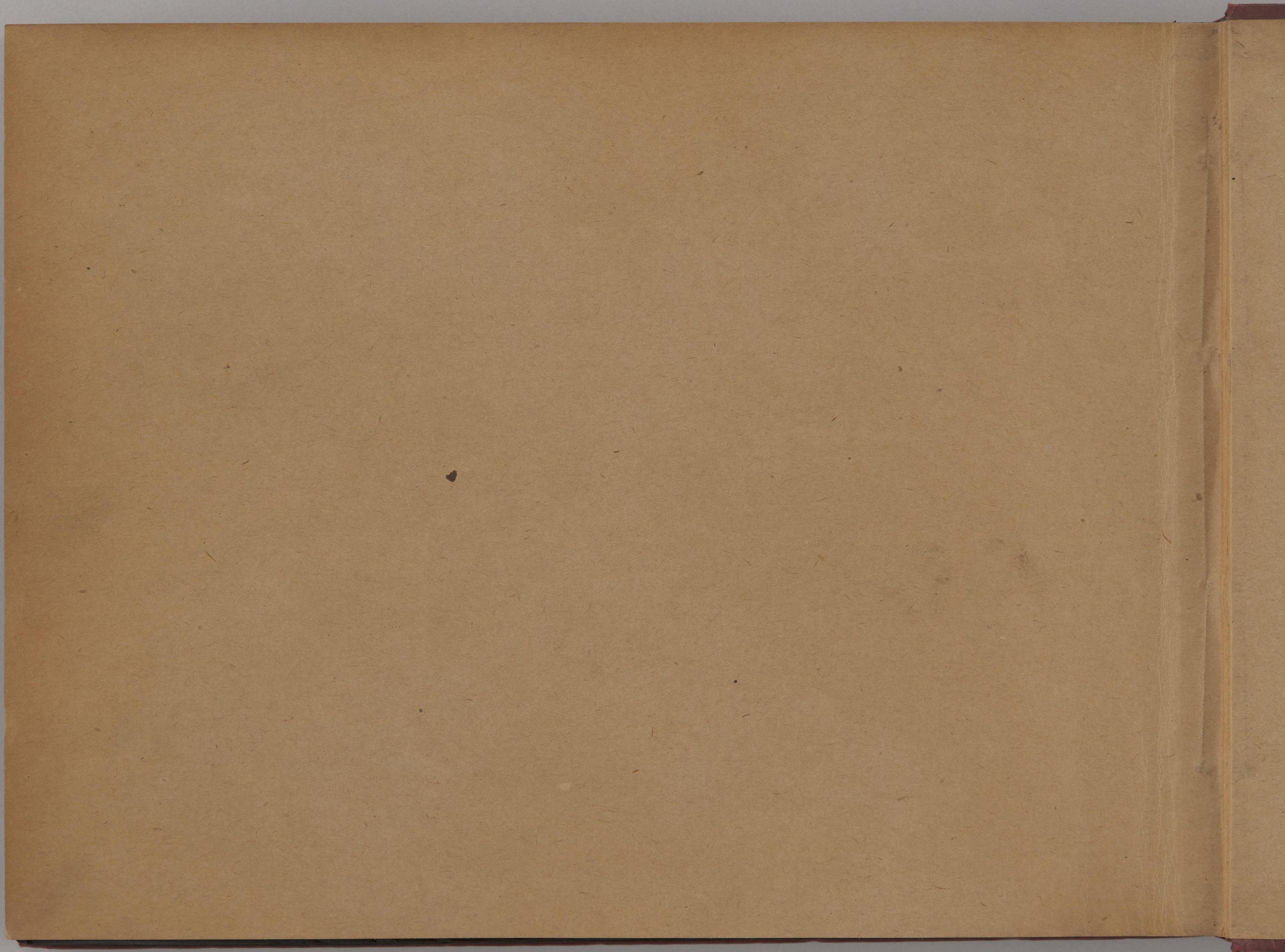
53
52

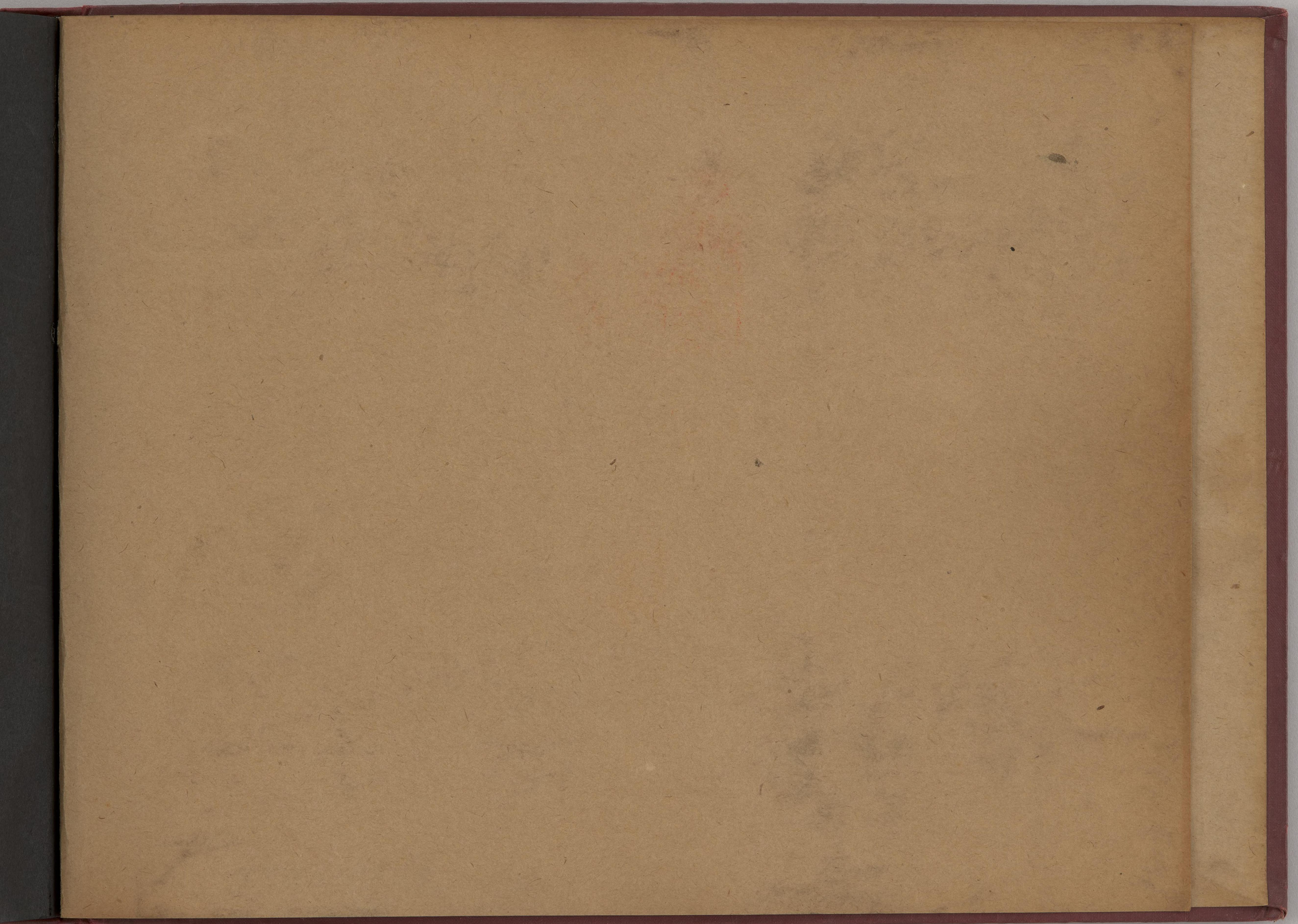
Ⓔ

禁電子式複写











同盟寫眞

新年原稿

一月一日

◎大本營に御親臨の大元帥陛下

◎お可愛らしき義宮様と三内親王様

(1) 義宮正仁親王 〓 宮内省御貸下 〓

(2) 照宮成子内親王

(3) 孝宮和子内親王

(4) 順宮厚子内親王

◎御寫眞に就いて嚴重なる注意事項

一、昭和十五年一月一日付朝刊新聞紙上(

絶対使用せざる事(一日付夕刊は不

一、ウイメント、速報、號外等にも一日以

前には絶対使用せざる事

右嚴守の誓約の下に特に御貸下げ相成りし

ものなるにつき各社に於かれましても石の

條々堅くお守り下さる様お願い致します

(尚ほ萬一御違反の場合には掲載社に於て

司法處分に附せらるゝのみならず今後永

久に時前御貸下の御事なくならず各社の蒙

る迷惑甚大なるものがありますから呉々

も御注意願ひます。

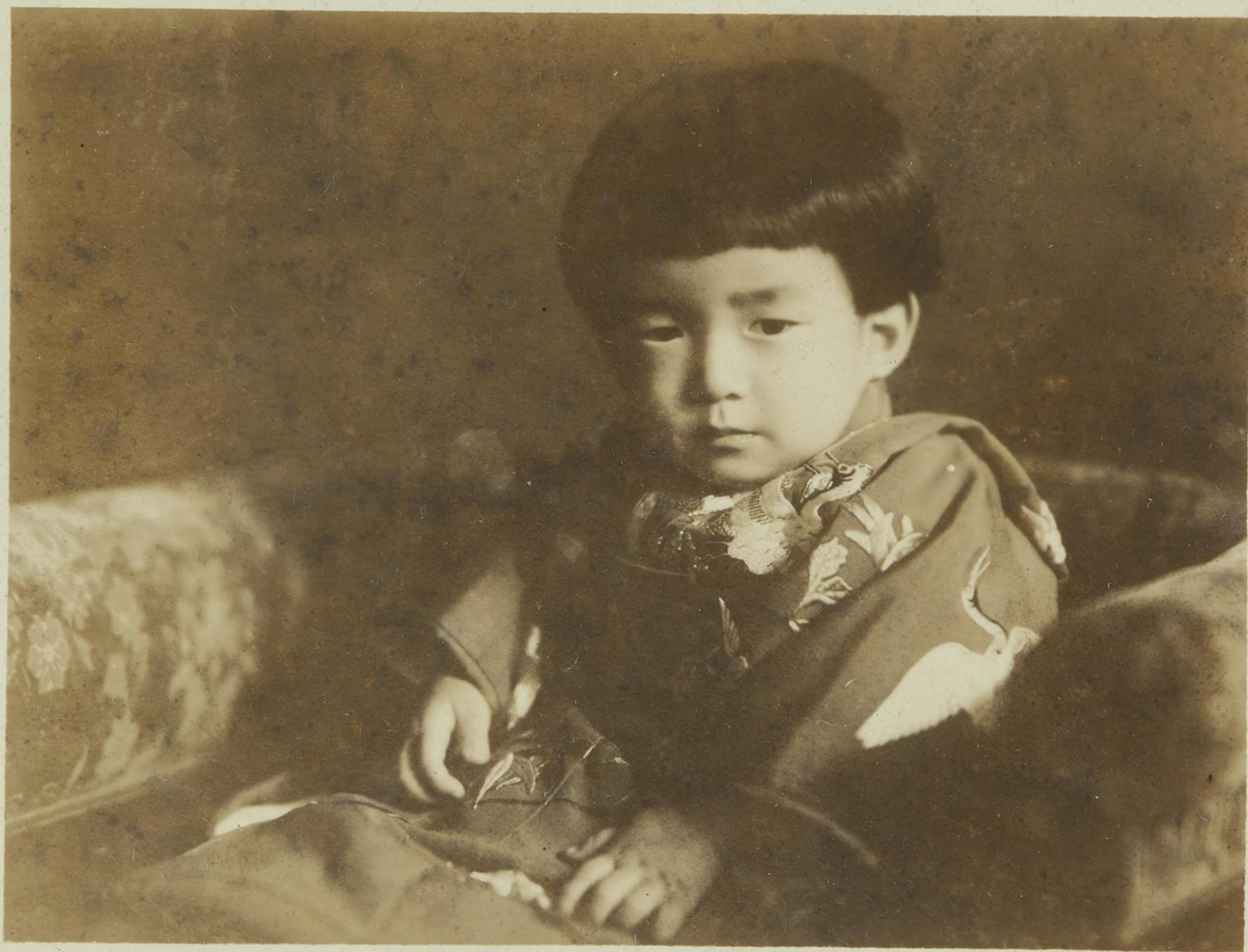
◎尚一、大本營に御親臨の大元帥陛下の御

寫眞御説明は右記以外の文字を決して記

載せざることを

御中

同盟通信社寫眞部









向監寫眞

新年原稿

一月一日

◎大本營に御親臨の大元帥陛下

Ⅱ宮内省御貸下Ⅱ

××××××××××

◎御寫眞に就いての嚴重なる注意の項

一、御寫眞御説明は右記以外の文字を決して記載せざること

一、昭和十三年一月一日付新聞紙上（一日以降發行）に奉掲し夫れ以前には絶対に使用せざること

一、ウインドウ、速報、號外等には一日以前には絶対に使用せざること

右嚴守の誓約の下に特に御貸下げ相成りしものなるにつき各社に於かれましても右の條々お守り下さる様を願ひ致します。

（尚ほ萬一御違反の場合には掲載社に於て司法處分に附せられるのみならず今後永久に時前御貸下の御事がなくなり各社の蒙る迷惑甚大なるものがありますから呉々も御注意願ひます）

同盟通信社寫眞部



同盟寫真

新年原稿

一月一日

◎勅題「神苑の朝」

◎瑞雲たなびく大内山

◎非常時内閣の重責を双肩に擔ふ近衛
首相

◎無敵海軍の重鎮吉田聯合艦隊司令長
官（横鎮檢閲濟）

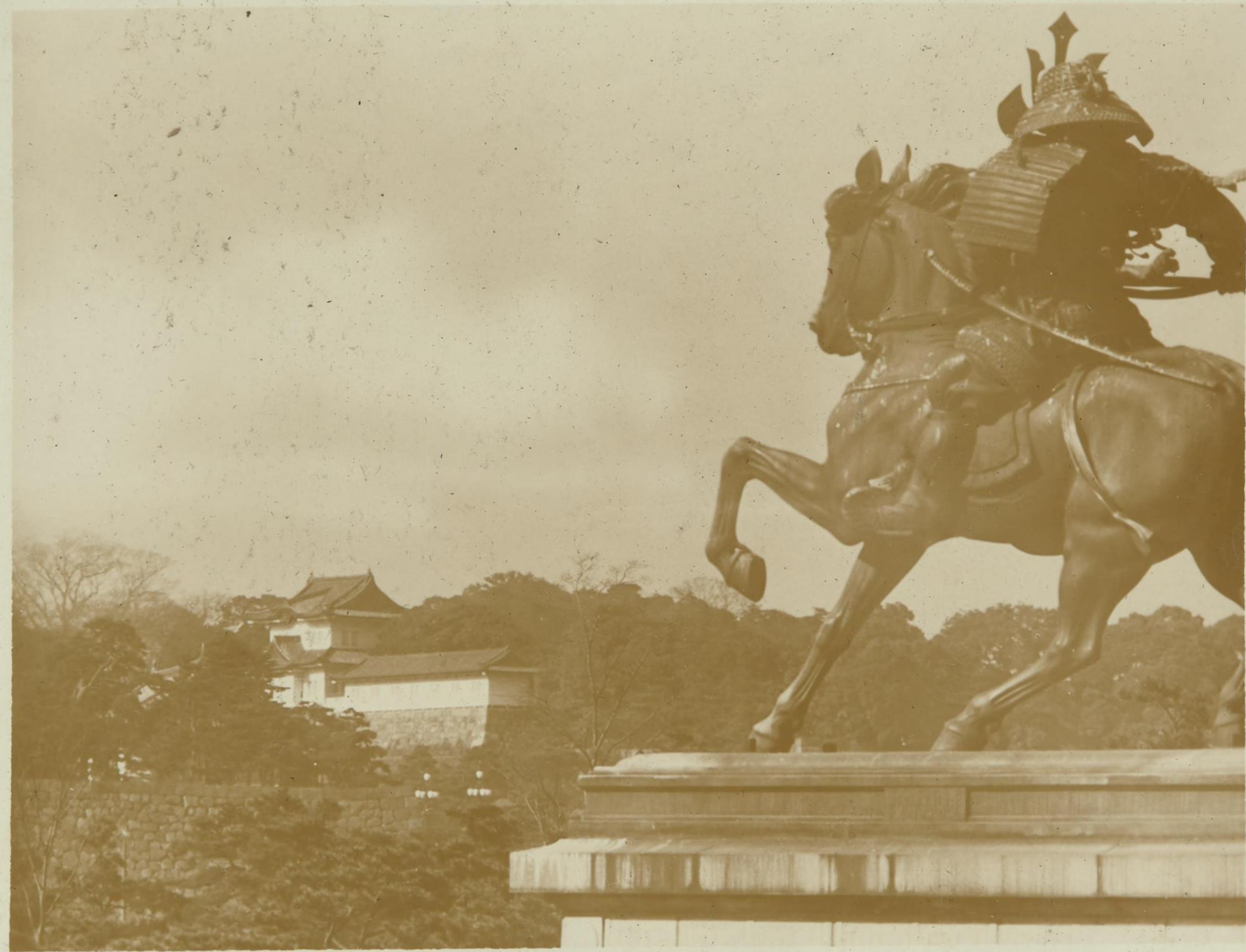
◎干支に因みて「猛虎」

◎「僕等の春」

お断り

昭和十三年一月一日付新聞紙上（一日以
降發行）より以前に御掲載なき様お願ひ
致します。













皇

画真为地三才下考

○戦捷彌末の元旦

東より昭和十一年一月一日

國運の隆昌は武運長久を壽ぐ律

律補々の元は明計やみ曉割かけ

神託する國民の依るの事^レに^レ依る

て^レを^レ母に^レ衛々に^レひ^レた^レに^レ都に^レ輝く

日の^レ光の^レ發に^レ人の^レ証は^レ輝^レる^レに^レ唯^レを^レ長^レ登

陛下の^レ徳^レ威を^レ禮^レ仰^レし^レ奉^レる^レ一^レ念

画真は







同盟通信社字真三ノ大内地通信

正月貳日

◎松井長谷川両司令官故国への声

放送に祈き入る松井夫人

新春を江南の戦場に迎ふる松井軍司令官と長谷川中將の故国への声が一月六日午後七時半からAK中継の下にラヂオを通じて全国に力強く送られた。宇真は大木林山玉の邸にて衷心慨深く夫志の衰へ祈き入る友より高橋久子と松井夫人。





② 元旦の慶、糸、三ヶ山一戦
 薄陽射す神宮競技場にて元旦午後
 二時半より、慶、糸、三ヶ山一戦
 は華々しく決行せられた。



同盟 馬車 大 才 下 三 号
 初荷
 朝の 荷 大 殿 殿 殿 殿
 馬車 大 才 下 三 号
 同盟



回遊世界
 書少石月 強草古已 証勅街 又
 小三三 大空 通りの 台出
 馬海 又
 六三三 張云



同盟 馬場力地 辛未年一月一日
新春祝儀大会
東京小照和 辛未年一月四日
物産会 日各市場初之会は 春高期律を
喜切ら小左衛門み所あら何れも 祝儀大会
会であつた
馬場は 東京株市場の初立会



○以始の御儀
陛下は午前七時東へ向に本御宮殿の上へ
の御儀を執り行せられた。
皇具は参内近衛首相



① 白宮大庭階下初の湯参内
 大庭階下にて湯参内(千石)小庭園天位階下
 には五石の屋敷付湯道外申玉の千石
 三石大庭階下湯あり湯参内初の湯参内
 湯参内
 湯参内
 湯参内



同盟 一馬真内地三ノス才一五号
 (横濱海軍始観兵式(横濱横関河
 東之) 昭和十三年一月六日)
 戦捷の者に干光を添(る)恒例横濱海
 軍始観兵式は之(年)後(時)事(か)ら(海
 兵團)官(庭)に(お)き(て)大(仁)行(牛)亦(た)。
 (馬)真(内)地(軍)艦(旗)を(先)頭(に)上(堂)を(行)進(す)



の事夏下消防お初式
 経江残る江戸の朱と桜蔵化近文社跡の
 料を車あめた松例京都の消防お初式は
 松蔵化本屋敷下の台の松行したと料
 十時より二を松蔵の松行したと料
 夏直河の松蔵化の身はみと桜蔵化



(1) 河北は多岐に亘る巨匠軍の礼節
 才三四少を悉く力撥物年大を以て七の甲時
 からは比な公園広物を引但まは僅側か
 二千の模型を配布を盛を極めん
 是共は
 巨匠軍士等

（の東平少少の人々にお慰者）
此等平社会部はお慰者の御之板橋子橋
動、大天幕を張り、汁粉三平人前にお慰者三平
人前を以てまわす等、飲けり
男真田
七枝小（三平）



向盤寫眞

内地ニユース

第一一六號

◎陸軍始觀兵式の盛儀

(東京)十三年一月八日

事變下陸軍始觀兵式は八日在京各部隊の精銳をめぐり大元帥陛下御親閱の下に代々木原頭に於いて壯麗に取り行はせられた。

寫眞は

一、御閱兵の大元帥陛下(二種)







◎清水川の新設式
大開張の清水川は千年の長い間男は話に別れを慕
前坊の陽り引懸した九の正午新設式を成
た。今後年寄位手風巻及び後進を指導するの
寫真は、多新設式



向盛為真 内地ニニ入 第一四號
 ◎訪かにトラの初集ひ
 (東京) 十三年一月十日
 おらか寅の春を壽ぎませうとて寅年生れの老
 若里女が初寅の十日をトして明治神宮に参拜
 六十一歳の松井最高指揮官以下出征將兵の
 武運長久を祈り續いて銀座タイガで懇親會
 を催した。寫眞は川島大將、中村大將(川島
 大將の方は早大若原氏)

◎戦時景氣お慶銀の山

浅草観音様に武運長久を祈つた善男善女のお
慶銀の計算が十日午前六時から傳法院で行は
れた。ここにつまれた御慶銀は元旦から九日
までの約半分二尺四方位のカマエに入れて約
二十個で六疊、八疊、十疊の三間を通した眞
中に敷かれた約二坪位の毛氈の上一杯にざ
ら／＼とあけられる。午後一時一先づ整
理が打ち切つたがこの總額約二千二百餘圓と
は素晴らしい
寫眞はお慶銀調べ



同盟寫眞

内地ニユリス

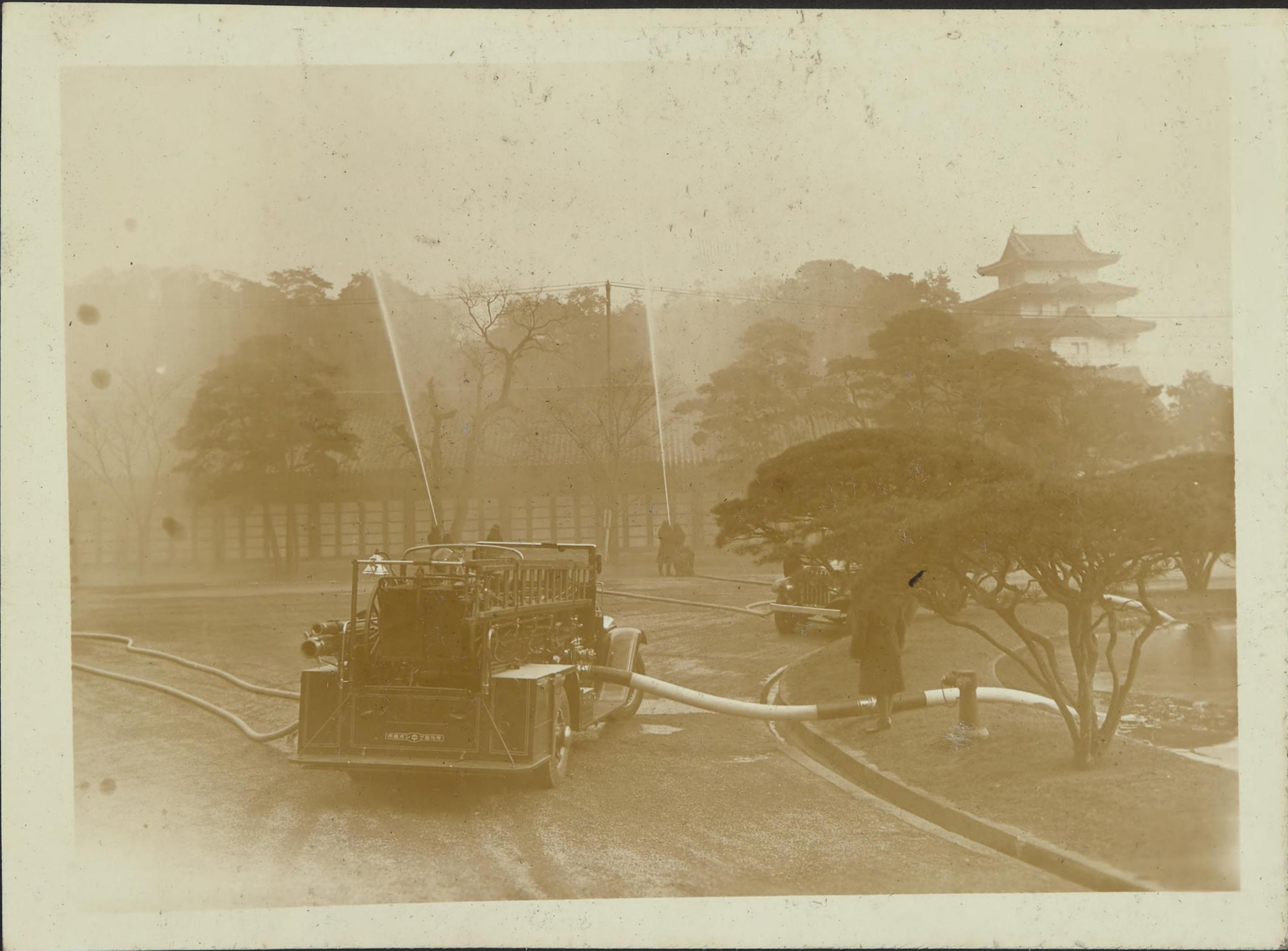
第四七七號

◎御前會議廠かに開かる
我最高不動方針確立

(東京)十三年一月十一日

抗日政權を根絶して東洋永遠の平和確立を期すべき歴史的御前會議は十一日午後二時より宮中一ノ間にて長くも天皇陛下御親臨の下に厳かに開催された
寫眞は





同盟寫眞

内地ニユリス

第一一四號

◎大内山春の出初式
(東京)十三年一月十一日
大内山新春の吉例消防出初式は十一日宮内省
廳舎前廣場に於いて皇宮警察部消防部員約百
名、自動車ポンプ四臺も參加、午前十一時か
ら盛大に舉行された。
寫眞は放水練習

同盟寫真

内地ニヨリス

第四一七號

◎朝日丸凱旋

(東京) 十三年一月十二日

北支並に中兩支の戦線を輝く武勳をたてた
陸軍部隊の名譽の戦傷者三百名を乗せた病院
院船朝日丸(一三、八六噸)は十二日芝
浦岸に到着した
寫真は芝浦にて



（東京）十一月廿三日
（東京）十一月廿三日
（東京）十一月廿三日
（東京）十一月廿三日
（東京）十一月廿三日
（東京）十一月廿三日
（東京）十一月廿三日
（東京）十一月廿三日
（東京）十一月廿三日
（東京）十一月廿三日

同日馬真 内地三三又
第一三三號

（東京）十一月廿三日
大入京氣を前に觸太鼓
戰捷の春を飾る大相撲春場所初日は愈々十
三日から華々しくふた開けられるが十三日
盛大な土俵祭の後恒例によつてふれ太鼓の
バチ音も勇しく大東京市内の隅々まで初日
取組をふれ廻つた。尚ほ午後一時から王錦
双葉山、男女川、武藏山以下十兩以上の力
士約八十名は宮城を遙拜した後、明治神宮
境内神社に参拜して皇軍の武運長久と相撲
道の隆盛を祈願した。
高直は





同盤寫眞

内地ニヨリス

第一四四號

◎南總督官家伺候

(東京) 十三年一月十三日

南朝鮮總督は十三日午前十時十五分新橋驛着

電車にて上京、且朝鮮總督府出張所に入り少

憩後各官家に伺候御挨拶言の記帳ををし、

午後は明治神宮、靖國神社に参拜した

寫眞は靖國神社にて



◎春場所大相撲初日
廿一年振りに横綱の対立する戦捷の春の晴れ
の春場所は前日午後十時半に徹宵突撃隊の一
番乗り初日の蓋開けて大鐵傘下巴に大入り
満員の盛況だ
寫眞は



同盟寫眞 内地三三三
 ◎皇軍大捷祝賀繪
 (東京) 十三年一月十日
 戦時下の継人形は無敵皇軍の大捷を喜ぶも
 のが断然多く北支新政黨の下に明朗化した
 天津から大量の法文があつた。
 寫眞は戦捷繪

第一三三號



◎故高橋翁愛嬢結婚式
故高橋是清翁愛嬢榮子さん（三三）と湯の
街伊香保の温泉宿「香雲館」塚越七平氏長
男喜一郎（二四）との三年の純愛はこゝに
に結實、十四日帝國ホテルで晴れの結婚式
を挙げた。
寫眞は喜びの新郎新婦

同盟寫眞

特殊ニユリス

第一〇六號

◎春場所大相撲二日目

(東京)十三年一月十四日

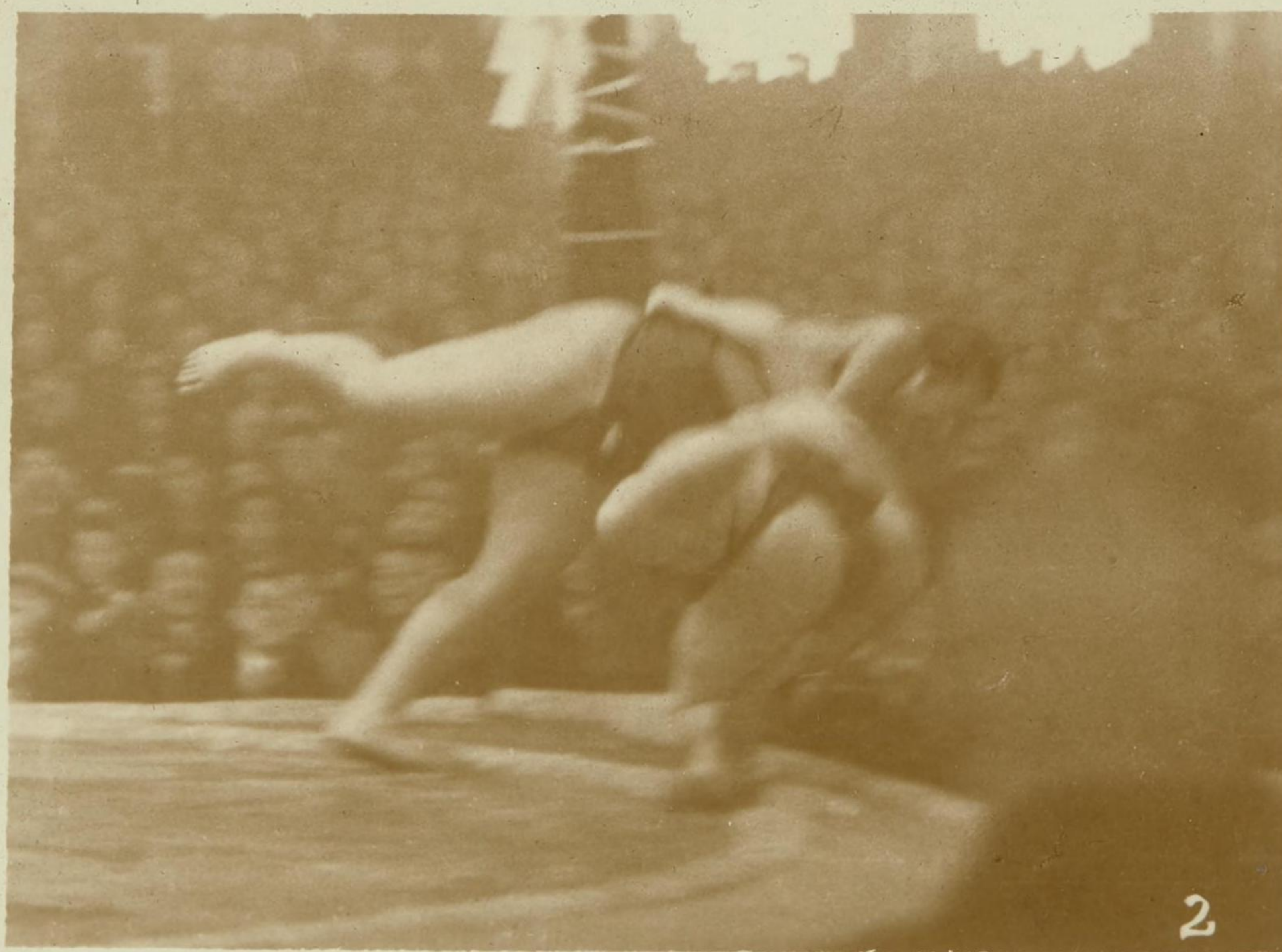
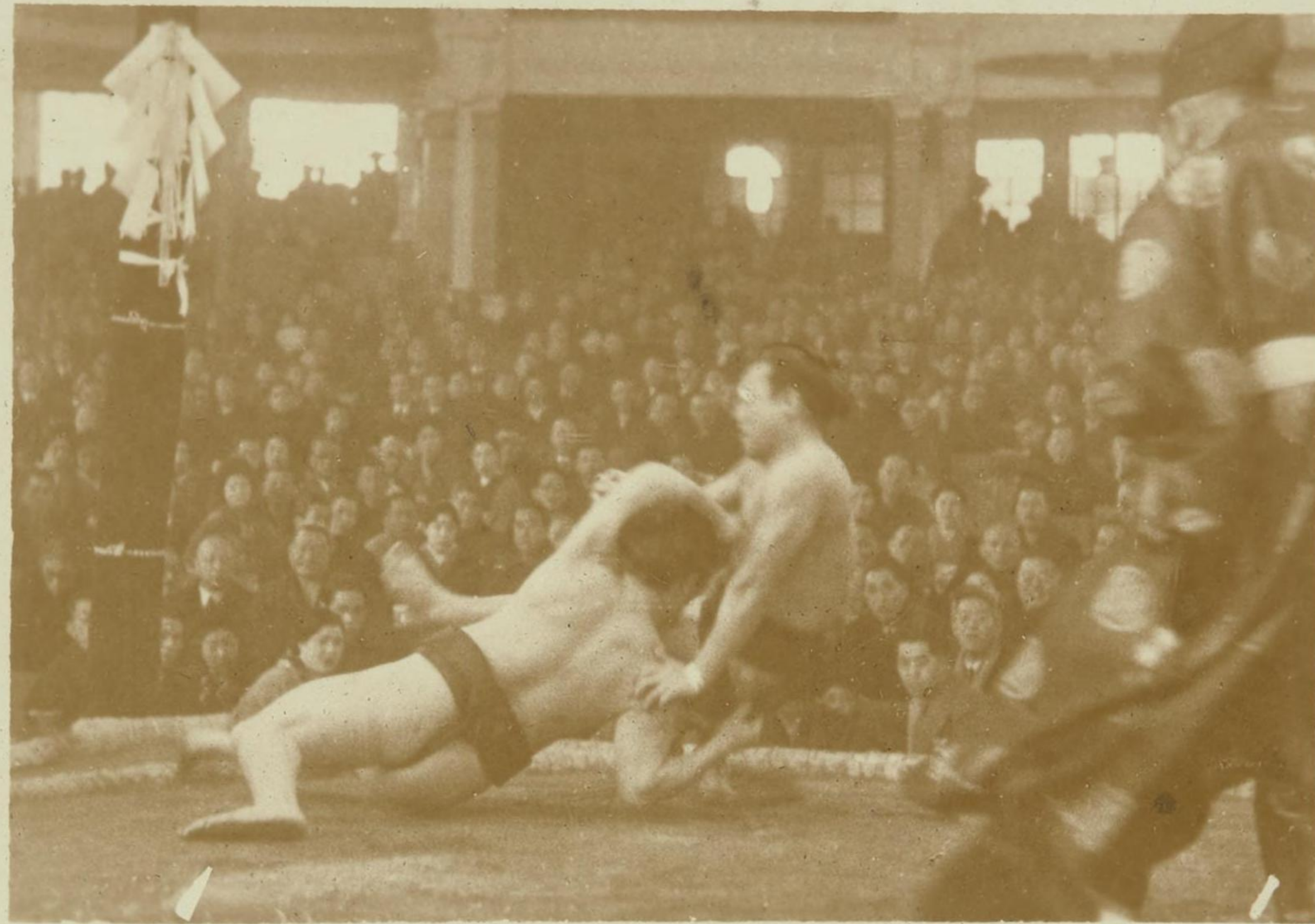
勝

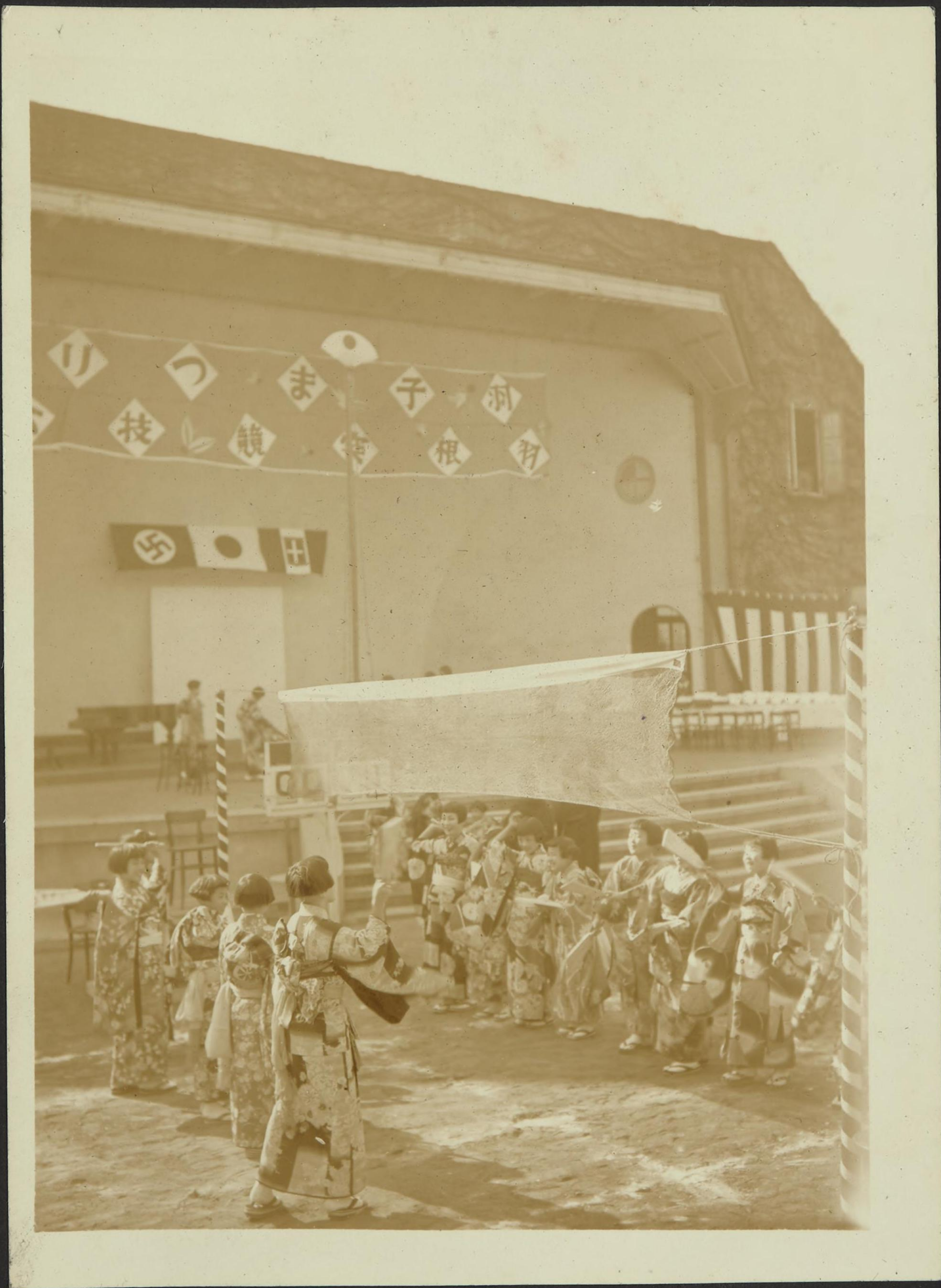
負

- 一、防長山(切返し)小松山
- 二、鯨ノ里(上手投)安藝海
- 三、青葉山(吊出し)出羽花
- 四、錦幸山(ひねり)大 浪
- 五、五ツ鳥(押切り)前田山
- 六、双葉山(上手投)九州山

『お断り』

發送時間の關係上一部地方は若干の遅延を
免かれません





同盟寫真 内地ニヨリス 第五十七號
 ◎羽根突き競技大會
 (東京) 十三年一月十五日
 市内小學校六年生女子兒童對校羽根突き競技
 大會は正午より日比谷公園で行はれた
 寫真は羽根突き競技

① 対支態度を中外に傳布
帝國政府の対支根本政策は土
の及ぶに於て三原則を以て
第一 支那の主權を尊重す
第二 支那の領土を保全す
第三 支那の利益を保護す





◎対支態度を中外に傳布
 帝國政府の対支根本國策は土の所願を
 採り及ぶ所ありては漸進並に十五の年の後
 には完全なる獨立を認め見の元氣を養ふこと
 十五の年首相官邸に於て金大老の茶会
 眞實は、この日の首相官邸
 金大老の茶会 眞實書記官長
 ありの自國の



同盟寫真

特殊ニユース

第一一六號

◎春場所大相撲四日目

(東京)十三年一月十七日

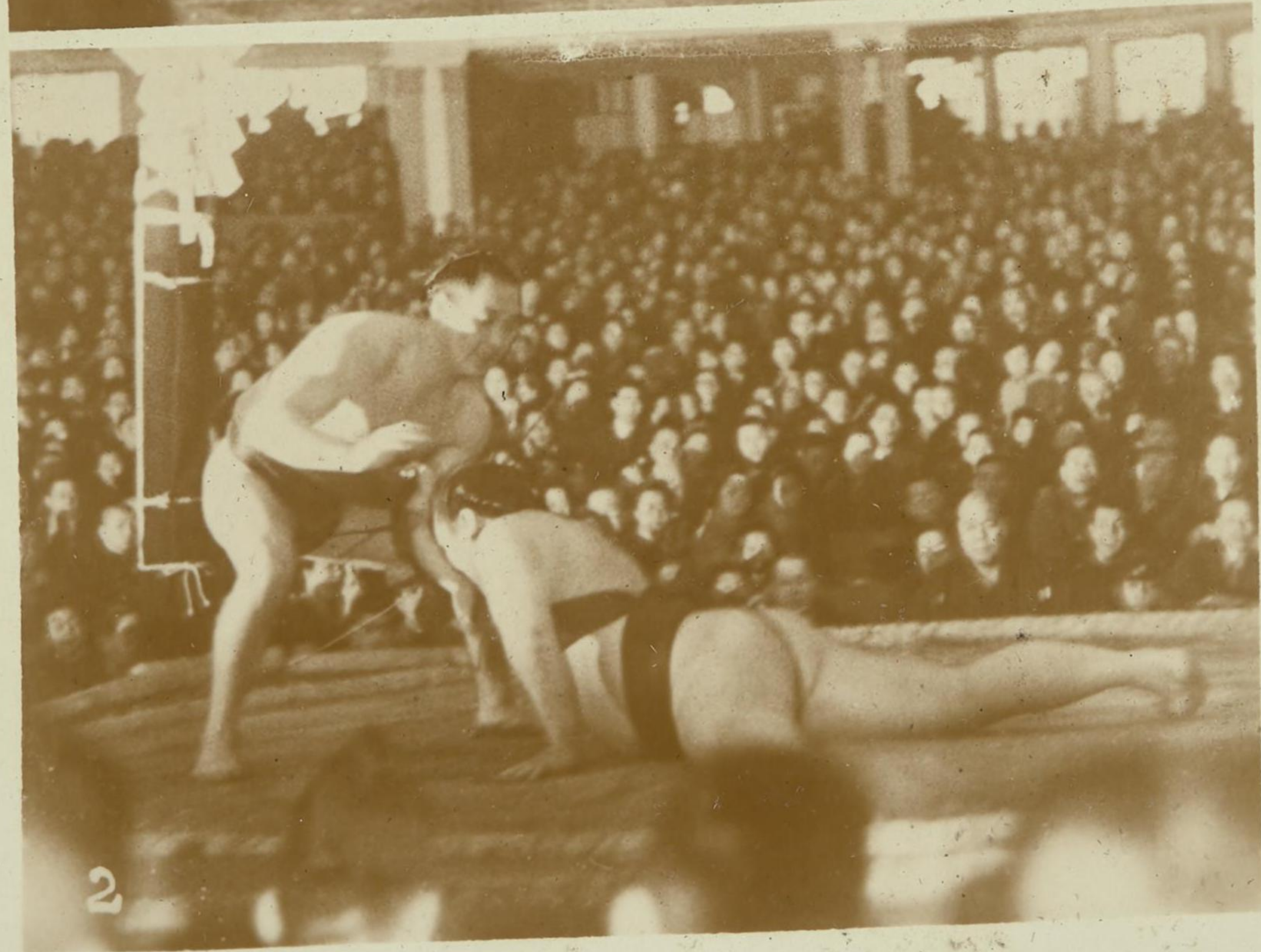
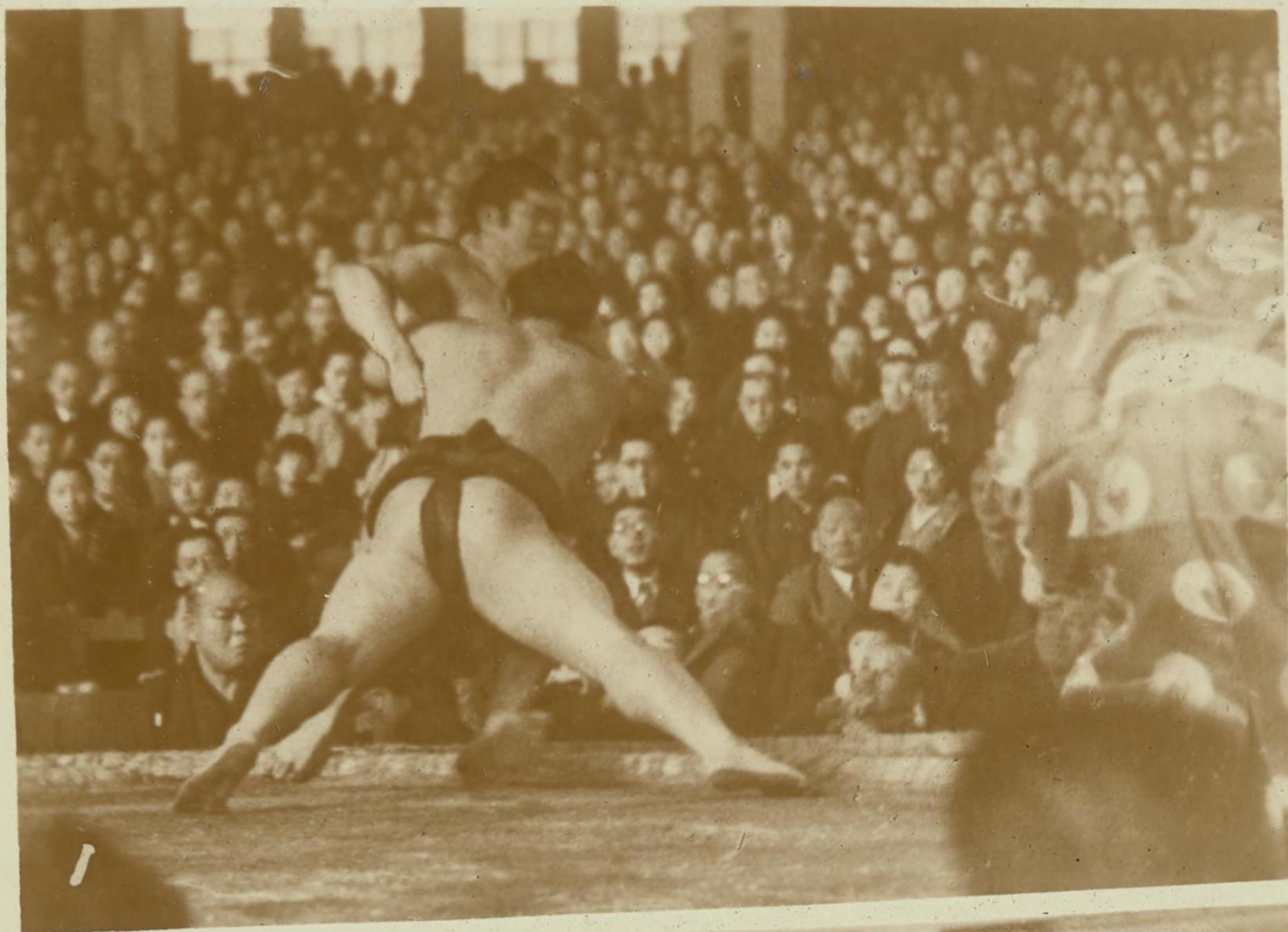
勝

負

- 一、小島川(押倒し)富ヶ嶺
- 二、幡瀬川(引落し)青葉山
- 三、笠置山(寄切り)金湊
- 四、綾昇(上手捻)男女川
- 五、玉錦(寄切り)出羽湊
- 六、武藏山(上手投)羽黒山

||お断り||

發送時間の關係上一部地方は若干の遅延を
免かれません



◎新雲鵬を大總統に
中華民國臨時政府は中國民衆の福し増進と安
定のため來る三月陽春の候を期し大總統推戴
による國本の雄立を實現するものと見られ元
國務總理たる新雲鵬氏が推される模様である
寫眞は新雲鵬氏



向照寫眞

内地ニユル

第一二三號

◎けふ御講書始の御儀

(東京)十三年一月十八日

新春宮中御恒例の讀書始の御儀は十八日午前

十時より鳳凰間に於て天皇皇后兩陛下出御、

莊重なる程に行はせられた。湯淺内府以下宮

内官、頭れの進講者佐々木信綱、澤塚隣、長

岡半太郎各博士、岡控山田敷事局、高田

東大教授諸氏、御進講中上げた

寫眞は(向つて右より)光榮の高田、山田、

長岡、藤、佐々木の諸氏





支那の戦野に奪き獲にたつた秋元軍曹外十
 七勇士の遺骨は十八日午前六時東京驛差列車
 で警をき凱旋をした。警に抗陸軍三隻官代
 理、第一師團長代理ほか愛國團體代表等三百
 餘名が出迎へ遺骨八柱は東京に下車、十柱は
 上野發原隊へ向つた。
 寫眞は東京驛にて

同盟寫眞

支那專使特通 一月十九日

◎松井軍司令官の御案内で上海激戦地蘇州河附近の戦跡御巡視の賀陽宮殿下



◎北白川宮女王殿下

裁判所、警視廳を御見學

女子學習院後期三年に御在學中の北白川宮
多惠子女王殿下には十九日午前九時御學友多
補習料及高等料學生百三十四名と御一諸に野
崎教授の引率で裁判所及び警視廳御見學に赴
かせられた。
寫眞は裁判所御見學の多惠子女王殿下
(~~ハ~~帽字
印の御方)



◎緊急地方長官會議

(東京)十三年一月二十日

長期戰時體制に處する近衛内閣の決意を徹し
 闡明すべき緊急地方長官會議は廿日午前九時
 五分より首相官邸に於て開會。近衛首相より
 支那事變の新事態に即應すべき帝國政府の強
 硬決意を披瀝し長期戰時體制に處すべき舉國
 一致の強化を強調して時局の再確認を要望せ
 る重要訓示を行ひ同十五分終つて末次内相以
 下各地方長官、警視總監、憲兵司令官は打聽
 つて官中に参内西溜の間において天皇陛下に
 拜謁仰付けられ御前を退下し同十時三十分よ
 り内相官邸に参集、末次内相より時艱克服に
 邁進するやう一層の奮起を要望する訓示をな
 した。

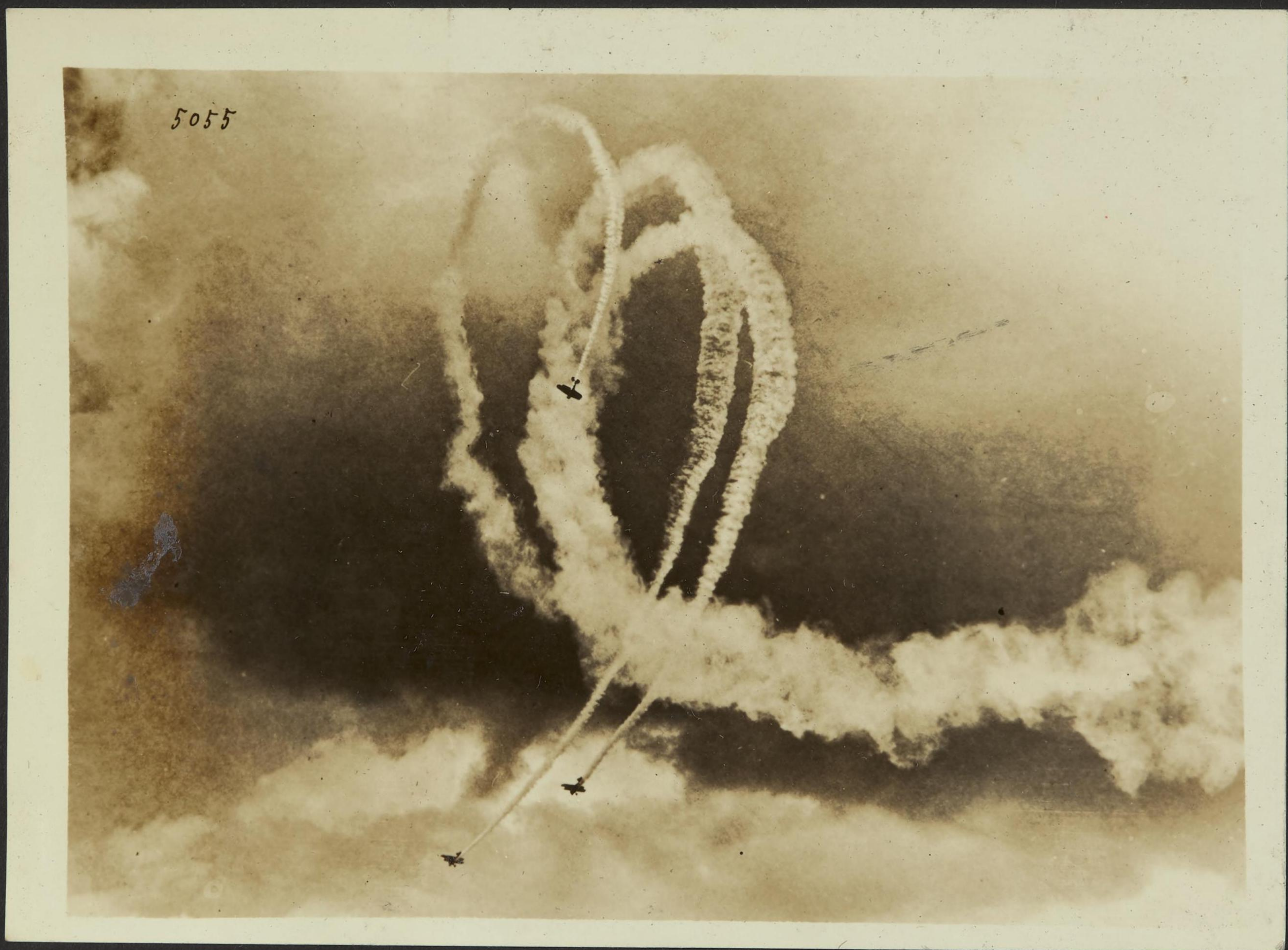


◎大空に畫く



迷を國民政府の對日抵抗が生んだ悲劇、駐日
 支那大使の引揚げは氷雨ふりしきる廿日、戰
 敗の苦惱を胸に包んで寂しく行はれた、許大
 使は午後一時引揚げ聲明を發表した後自動車
 で雨の京濱國道を横濱へと向ひ、エム・プロレ
 ス・オブ・エシア號に乗船、戰亂の故國へ歸
 つた。
 寫眞は許大使と結城日銀總裁の挨拶

◎許大使の引あげ



◎大空に畫く
（マイアミ）發同盟
昨年末營地で行はれた全米飛行大演習に於け
る煙幕實演
Ⅱ第五〇五五號Ⅱ

◎愛國行進曲翁古稀祝
 一代の名作曲家瀬戸口藤吉翁の古稀の祝を兼
 ねた愛國行進曲當選祝賀の夕が内閣情報部の
 肝煎りで二十日夜水交社で催された。
 寫眞は（向つて左から）武富海軍少將、瀬戸
 口翁、佐々木信綱博士（後方）山田耕作氏



一、東京歸着の伊藤公使（右）
 外務省に於る日高参事官（左）
 ◎半島志願兵實施の喜び



一、東京歸着の伊藤公使（右）
 一、外務省に於る日高参事官（左）
 ◎半島志願兵實施の喜び
 朝鮮に待望久しい志願兵制度が布かれた祝宴
 の大行送が二十一日夜相愛會主催で在京半島
 出身者約一千名参加の下に江東から宮城
 前へ更に靖國神社へ賑かに舉行された。
 寫眞は朴春琴氏を中心に萬歳

同誌

内地ニヨリ又

第一五六號

◎臨時議會再開

(東京)十三年一月二十二日

第七十三回通常議會はいよいよ廿二日再開、

貴族院は午前十時開會、首相の施政方針演説

外相の外交演説に次で杉山、米内陸海兩相の

事變報告より衆議院は午後一時開會、首相

相演説に次で藏相の財政演説終り終つて陸海

兩相の演説あり質問職に入る

寫眞は



同盟寫眞

内地ニユース

第一號

◎近衛さんの放送

(東京)十三年一月廿三日

近衛首相は廿二日七時卅分から洋服のまま、官邸の二階大廣間に設けられたA・Kのマイクに向ひ「時局の新段階に處する政府の所信」と題して晝間議會で述べた所信を更に一般國民にうつたへた。

寫眞は



河野監寫眞 内地ニヨリ又
 ◎隅田川寒中水泳大會
 (東京)十三年一月二十三日
 体育向上、兩寒訓練を目的とする隅田川寒中
 水泳第三十一回大會は聖戰第二年非常時局下
 の二十三日午後一時から兩國橋下にて舉行さ
 した。寫眞はその寒中水泳

第三十六號



◎梅見の日本の勇士
 春日燦々と降り注ぎ梅開きに賑々熱海の日



◎梅見の日本の勇士

春日燦々と降り注ぎ梅開きに賑ふ熱海の一
熱海市では遠く北支守南支の聖戦に名譽の負
傷を受け予後陸軍病院熱海子院に養ふ白衣の
勇士達を今を盛りと咲き誇る梅林に招待慰安
會を催した。

寫眞は白衣の勇士の梅見

同盟寫眞

内地ニユリス

第三六號

◎日米親善の兩嬢歸朝
 (東京)十三年一月二十四日
 日本女生徒の作つた手藝品を持参し日米親善
 に役立つた山室軍平氏令嬢光子、今井和子の
 兩嬢は朝七時横濱入港の氷川丸で歸朝した。
 寫眞は歸朝の今井(左)山室(右)兩嬢



同盟寫眞

内地ニユリス

第三六號

◎電力國家管理案上程

(東京)十三年一月二十五日

同盟寫眞 内地ニユル

第百三號

◎電力國家管理案上程

(東京) 十三年一月二十五日

衆議院予算總會は午前十時開會、勝、砂田兩氏を先陣に緊張した論戦が展開され、本會議は午後一時開會今朝議會の中心問題として波瀾を予想される電力國家管理案を上程した。

寫眞は

一、予算總會初まる

一、電力管理案提案理由説明の永井遞相







◎前田山の六調決定
戦勝の春をめでたく連日超満員のうちに春場
所をうちあげた相撲協會では廿六日午前九時
から協会で新番村編成會議を開いた結果、東
方小結の地位にあつては一勝一敗の好成绩を
あげた前田山を満場一致大騎に推薦した。
寫眞は喜びの前田山

同盟寫眞

進動ニコイス

第一號

◎春場所大相撲千秋樂
双葉山終に勝放し

(東京)十三年一月廿六日

沸上る大人氣の裡に横綱双葉山は勝放し、四場所連勝の好成績を納めて攝政盃、優勝旗等を獲得した。

寫眞は

一、大ニコニコの双葉山



同盟寫眞

内地ニユル

第一一七號

◎衆議院予算總會

(東京) 十三年一月二十六日

衆議院予算總會は午前十時から開會、賀屋藏
相から昭和十二年度追加予算(厚生省所管、
軍事扶助法に関する經費千五百萬圓増額)の
説明あつた後質問に入つた。尚ほ電力管理案
委員會は午後二時開會委員長 俵孫一氏及理事
の互選、政府の説明があつた。
寫眞は一



同盟寫眞

内地ニユリス

第一二三號

◎十二年度追加予算案可決

(東京)十三年一月廿七日

衆議院予算總會は午前十時開會、質疑應答の

後十二年度追加予算案を可決、直に本會議に

上程委員長報告通り可決確定

寫眞は

一、予算總會の大臣席(前列右から)首相、

外相、海相、陸相、藏相(後列右から)

文相、内相

一、追加予算可決の本會議



◎病院船ばいかる丸入港
二十七日午前九時半病院船ばいかる丸江は江
南の戦野で名譽の戦傷を負うた藤原武騎兵少





◎病院船はいかる丸入港
二十七日午前九時半病院船はいかる丸江は江
南の戦野で名譽の戦傷を負うた藤原武騎兵少
佐他百六十一名の白衣の勇士を乗せ硝煙に染
まつた赤十字旗をメーソンマストにひるがへさ
せて純白の姿を東京港に現はした。
寫眞は
一、芝浦岸壁にて

東京の大使夫妻と令息

◎やまと人形の贈物
日本女子聯合青年團と聯合婦人會がヒ總統と
首相へ贈るやまと人形の贈呈式は廿八日午後二
時から芝公園女子會館で行はれた。
寫眞は左から伊大使、コルノ獨大使代理



◎衆議院予算總會



内閣 閣員 内地ニユリス
 第百一十四號
 閣議院予議院會
 (東京) 十三年一月二十八日
 午前十時より開會したが貴族院本會議開會中
 のため大臣席は殆んどガラ空き原、松村其他
 諸氏の質問を續行した
 寫眞は
 一、淋しい大臣席
 一、答辯に大童の首相、外相、陸相





一、
◎衆議院から
廿八日夕刻波瀾を極めた予算總會、密議
する各大臣
今日の國民保健法案委員會答辯の木戸厚
生相

同盟寫真

内地ニニ入

第一七號

◎時の人四人を祝賀
(東京) 十三年一月二十九日

時の人 末次内相、木戸文相、松岡滿鐵總裁

鉦川日滿重工業總裁の四氏を出した山口縣出

身者の組織する防長俱樂部では廿八日午後六

時上野精養軒で四氏の祝賀晩餐會を開催した

寫眞は左から、川義介、末次内相、木戸文相

の諸氏